《資料》

# 小梅日記弘化五年の条(一)

藤田貞一郎

一 解題
二 史料

## 一 解題

このところ、「天保期和歌山藩下級武士女房の日記(その一)」(同志社大学人文科学研究所編『社会科学』第五巻第一号)、「天保八年和歌山藩下級武士女房の日記」(『同志社商学』第二十六巻第一号)と題して、史料紹介を続けて来ている。今回の「小梅日記弘化五年の条(一)」も、これにつらなる史料である。

前の二回とは変わって、「小梅日記」とあらためたのは、筆者名を確定することができたことによる。この点については、読売新聞阿部年雄氏の努力によるところが大きい。阿部氏は、昭和四十九年六月七日の読売新聞紙上婦人と生活欄に、日本最古の主婦日記としてその奔走の成果を示された。

川合小梅は、文化元年(一八〇四)に生まれ、十六歳で川合梅所(寛政六年(一七九四)—明治五年(一八七二))を養子に迎えた。南宗派の絵をたしなみ、花鳥および美人画を描く。十六の年より明治二十二年(一八八九)、八十六歳で世を去るまで日記を書き続けたという。

これまで、嘉永二年（一八四九）からの八年分と明治九年（一八七六）からの七年分の十四冊については在所が確認されていた。また、この部分については平凡社から出版される計画もあるようである。海南市黒江八一七　片山卓蔵氏所蔵の天保八年と弘化五年の両年度の日記は、これの前半部に属するものである。

東京大学の山口啓二氏も指摘するように、女性文化史の面からも興深いものがあるので、ここに本誌を借りて公開していこうと思う。今回は弘化五年一月一日から四月末日までの部分を掲載する。このあと二回にわけて全文の紹介をはたしたい。

なお、小梅の主人、川合梅所は和歌山藩の御書院番を勤めたこともある藩校の儒者であった。

（一九七四年六月二十五日）

（附記）解読に当たっては、同志社大学人文科学研究所仲村研氏のご教示を得た部分がある。もっともありうべき誤読は私の責任である。

## 二　史　料

○元日。快晴ス。風有。主人宿ニ而休。田中善之助小嶋伝右衛門子ノ弟ヲ同道ス。其内又九右衛門殿来る。弟ハかへる。両人二階ミる。初而此楼上ニ而酒出ス。大かた酒たけなハに及ふ比、喜多村半右衛門来る。又二階へ上り、供（ママ）に一盃出し、九右衛門殿善之助と先へかへる。半右衛門火ともし五ツ前かへる。

○二日。同しく天気よく晴也。鈴木芳右衛門殿来り酒出ス。昼後権七ヲつれて諸方廻り岩橋、田中ニ而酒呑候よし。田中ニ而ちやうちんかり夜五ツ過帰る。昼喜多村ノ両子礼ニ来リ、又後ニ才一郎約束ノくじらト浅草のり持参ス。此方ゟも干かれ目ニ入る。昼畳紙一ツ遣ス。

○三日。天気也。今日ハ岩一郎諸所へ礼廻り七ツ比帰る。主人ハ柳窓ヲ待居てどこへもふ行。

○四日。少ミ曇る。岩一郎田中岩橋杯へ行。善助との

酒呑居る所ニ而一ツ出したへるよし。三日ニ戸口ノ家敷跡へ善之助夫婦隠居久野等かりニ引越しよしゆへ、其所へ岩一郎行、未た何もととのハすとて茶菓を出されたるよしニ而直ニ帰る。今日ハ岩ノたん生日ゆへ赤ままたき梅本家内ヲよふ。池田へ送り膳。権七ニもたへさし。三百文節季ヤ又此間ノ供もしけるゆへ祝義遣ス。主人諸方廻り。北野本右衛門ゟ榎本ノ手紙届ケニ来る。夕方栄谷才二郎来る。干大根壱わ。

○五日。快晴。栄谷才二郎ノ倅来る、直ニ帰る。野呂清二郎来る。酒出し、昼比帰る。

○六日。少ゝくもる。おかや礼ニ来ル。ぞうに出ス。七ツ過帰る。昼過正住寺来る、直ニかへる。あられちとくふる。ミかんひけこ一ツ酒券二持参桃井ノ親来る。

○七日。朝ノ内雪有景色大ニよし。昼前浅之助来る。直ニ帰るよしなれとも酒出ス。二階ニ而。八ツ過岡本緑邨来る。又酒出ス。かへる会ニ而三伯市川川嶋くる。夫より前藤助との礼ニ来る。一所ニ一盃たへて先へ帰らる。おそく四ツ過ニ西光寺来る。夜七ツ比帰る。安兵へ娘小梅手つたひ。夜ふさよのよひニ来りかへる。昼後所ゝへ礼廻り岩一郎。長七来る。酒出ス。入用十八匁六分。半ハ残る物也。

○八日。快晴也。今日久家馬助方へ同僚中よばれる、八ツ比ゟ行所、小出主計昨日ノ断ニ来り、かれ是七ツ過比ゟ行。小出ハ直ニ帰。浅之助ニ銀二百目借用ノ約束。

○九日。大ニ暖和也。せんだく。岩一郎ハ今福へ昨日約束ノ銀弐百目取ニ行受取帰る。主人礼廻り。又田中九右衛門方へ十二日ニ来る様申ニ行、岩はしへも寄酒呑。

○十日。大ニ暖和也。昼後出口善之助方へ行。其前同所ゟあめ送らる。夜亀右衛門江百目渡し、又祝義ニ十匁、久右衛門へハ八匁、源右衛門へハ五匁遣ス。暮ニ母君岩一郎金ひら参り。

○十一日。快晴暖和。くずしこしらへる。黒田お鹿本持参。畳紙一ツ送る。

◑十二日。雨。今日同僚ヲまねきしに山本先生服しやゆへ省太郎殿来る。柳窓主早ゝゟ来て手伝ひ、善之助も来る。久右衛門殿ふ来。夫ゟ浅之助主来る。岸ゟ断かき少ゝ送らる。伊藤来。志賀ハ五ツ過来らる、菓子一箱持参。皆ゝ九ツ比帰らる。其節ハ天気はれる。月色よし。千代野手伝ひ、熊向ひニ来る。

◐十三日。快暖気也。有田塩谷年礼ニ来る。れいノ通り私へも豆壱袋くれる。直ニ帰る。梅本兄たん生日ゆへ赤いいたき家内よはれる。夜雨降。

○十四日。はるる。百武さう礼。善之助方とうふやくゆへ来れよとの事、うば玉餅一箱持参ス、夜四ツまへ帰る。客ハ志賀美濃辺権二郎世古斗ノよし也。尤柳窓主とうふやく。昼、浅之助来る。かンキ丁ヘノ証文渡ス。酒出ス。

○十五日。大ニ暖和。梅ノ匂ひよし。向へ川覚円寺来る。子ニおしへてくれよとの事直ニ帰る。今日教文詣ノ勧会ゆへ行。夜四ツ比帰る。城ノ口母来る。昼帰也。

○十六日。快晴。山本先生御出也。酒一ツ出ス。昼後帰らる。源右衛門ノ代文吉来り、つほゆかミ直し七ツ比帰る。めし酒出ス。夕方西光寺ゟ使来る。榎本北野参られ候間只今御出候様ニとの事。則行九ツ比帰る。

○十七日。学校けいこ初五ツ過行。八ツ比帰り、又久家馬助へ行。酒券二葉此度ノ悦ニ遣ス。日五ニ而酒三升取。風呂たく。

●十八日。水嶋ノ弟子来り又狐嶋ノ覚円寺新ぼち龍銅来る。札七枚持参。源津ノ惣領同酒券一。美濃丈来る。夜前市川へ行。大盛詩ノよし。すし少ゝミヤげニ持帰る。盆五枚求、十一匁ノよし也。笹屋文五郎、夜藤四郎殿ニ一盃出ス。

○十九日。段ゝはるる、昼から快晴ス。学校当番也。

△　松下富之助うち根持参。右ハ七日ニ古キほ相渡し

こしらへ貰ふ也。今日出来。代壱歩なれ共十三匁ニて出来る。房ニつち色ニして六匁八分なれども六匁ニまけるよし也。右頼ム。明日出けるよし也。扨今晩あたり御家内御出と申候也。学校へ行かけ右代十三匁持参して、今晩弥御出、しかれハ浅井氏ヲもさそひて来り候抔申候。小児少ゝ勝レされハ寿代夫婦斗行との事。主人帰る。夫より先省太郎殿来られ、今日是から野呂清吉方へ参候、定而御出成へしと言。只今学校ニ出候へ共、其事も申御さ候と言、直に帰らる。又岩橋鉄助来り野呂方ハ廿三日ニ相成候と言。其内松下来るニ付明晩ニのばしくれよと言候而帰りし跡へ鉄助来る也。又岩はしへ主人行、夜帰る。権七馬ぶん馬ノ爪抔持参ス。源右衛門雨もりノ処見ニくる。しかし、分りかね候間こんと雨ノ降時又ミに来るとの事直ニ帰る。狐嶋僧くる。

○廿日。快晴ス。夜松下三人ト浅井武助来ル。四ツ過迄咄し。松下ノ小児ふ快ゆへ隠居も妻女も不来。浅井ノ奥ハやう出来候者也。帰りニすし送る。田宮ノ兄弟来る。夜梅本家内来る。黒田へ本かへし、又二さつかりて帰る。

○廿一日。快晴さむし。何事もなし。

○廿二日。同天気よし。寺田秀三郎入門。水嶋秀敬同道○浅之助来る。直ニ帰る。堀茂市来る。菓子持参。夜あられふる。大ニさむし。

○廿三日。さむし。八ツ比狐嶋僧親来る。酒出ス。夜、梅本へよばれる。

○廿四日。快晴ス。

○廿五日。大ニはるる。佐氏ノ会ニ而七ツ比ゟ人ゝ来る。榎本来る。其外ハいつもの人数也。岩橋、田中ハふ来。入用壱荷位、人数七たり、家来二人也。

○廿六日。風有さむし。有馬ゟ手帋持参。文言あらましハ旧臘普請被成候処高き所有之右ノ見かくしハ名目斗ゆへ徳といたしくれ候様もし品ニゟ此方ゟ失礼ニ大工へ申付いたさすへし。先屋根つくろひ樹木ノ枝払さへ近所ハ断申ニふ断、見越ノ所ゆへ

先ニ相談も可有筈との事。有馬鈴木田代大須賀四人ノ連名ニ而申こす。右ノ返事ニ付向へ川源三郎ニ書もらふ為ニ行。夜四ツ前帰る。道少々ちがいひま取川上舟ノ者ニ案内頼候よし。又右鈴木ノ所ニ而も相分りかね逢候人ニ尋候よし也。留主中なれとも母君小梅松下へ礼ニ行。小児大分あしく直ニ帰らんとセしニ酒一ツ出ス。すしミやけニ持帰る。

○廿七日。快晴さむし。有馬へ返事遣ス。あらましハ元来高き所ハ書物置場ゆへ遊飲ノ所ニあらす。しかしさしつかへニも相成候ハハいかやうとも見かくし可致間風ノ入候御さしついたし候様ニとの。松下へ酒券畳紙三センべい持参ス。榎本ゟ猪肉くれる。滝本ゟ春のり。

○廿八日。大ニ快晴ス。風呂たく。今日ハ野呂清二郎方へよばれる。田中へも寄。出口へ引越ノよし也。又出口へ行。赤いいによばれる。善之助わいなん等も同道ニ而野呂へ行。同座ハ山本岩橋わい南志賀宮本等也。大ニ盛詩のよし。けいしや来るよし也。留主中小梅池田へも行。又夕方万二郎同道ニ而キタムラへ行。妻女極大切也。片目はれ鼻も一所ニ高くはれあがりたり。

○廿九日。大ニ快晴。学校ニ出ル。又村井へ立寄。此間申来りし見かくしノ事ニ付相談じる。権七伊勢やへ遣し大小取、羽織も同作りニ脇指ト一重物ト札三枚渡ス。過八十文。昨日池田へも一寸行。柳原ノ店人より貴志か猶覚束なきよし。田宮鑑清院ヨり文ノ返事よこさる。哥も添。

二月ヨり

○朔日。大ニ快晴ス。暖和也。学校文会ゆへ八ツ比ゟ出夕方帰。池田ゟ風呂申来る。断。奥方礼ニ来る。肴九ツ斗持参して直ニ帰る。夕方村井庭迄来る。此間大須賀へいてもらひし事ニ付来る。同人義何等了簡無御座よし也。熊来り三角ノ棚松下へ持参ス。又古障子弐本持参る。

○二日。大ニ暖和也。初午。主人鈴木又ハ岩橋へ行。

母君いなりまふて。七ツ比ゟ岩一郎も参る。小梅るす居。小梅画かく。大美人。

○三日。今日も快晴少ゝさむし。川嶋角太郎ゟ使来り夜行。夜雨降。小梅画かく。

○四日。大ニさむし。大橋又ハ細井正二郎入門。酒券二枚ツツ。扨浅井田江戸ゟ戻るニ付むかへニ松原迄行約束。田中善之助滝本さそひニくる筈。一酒一看こしらへ置処滝本斗来り一盃呑て行。直ニかへる。もはや朝五ツ時分帰りしとの事也。有馬ゟ三人連名ノ手帋来る。ミかくしノ事田代有馬鈴木也。キタ村ゟ才一郎まんちう九斗すそわけ。妻女大ニ大病。夜市川へ日本外史持参。

○五日。少ゝくもる。会ニ而人ゝ来る。其内善助忌明礼ニくる。又、酒井省抔も礼ニくる。霜月末ゟ正月十五日迄たんいんニ而あしく、夫ゆへ無沙たとの事、直ニ帰る。山いもつと黒豆持参。此方ゟ菓子一箱有合ノヲ送る。滝本へ権七ヲ遣ス。三谷へ行候様ニ頼ム。朝省安ヲよひニ権七ヲ遣し、又同人来り、三谷ヲ見廻庭より帰る。夜滝本来る。酒出ス。干大根くれる。有馬田代への返書ノ事頼ム。

○六日。朝、小林へも行。三谷へも行。又滝本へも行。松下へも見廻ニ行。夜返書有馬へ向遣ス。酒出されしよし。マンチウ送る。

○七日。今日源津くる由ゆへ酒一ツ調へ置し処七ツ前浅之助来り、酒出し居る内、七ツ過藤助定二郎同道ニ而来る。同しく酒。夜狂哥よミうたひ抔ニ而遊ひ九ツ比帰る。其後風呂へ母君と小梅入。喜多村此間中大病。喜多村へ見廻遣ス。

○八日。マンチウ・てんヤ物都合三匁分。朝安兵へ藤ノ木壱本持参うへる。母君キタ村へ見廻、同様。垣より鈴木へ主人行。小本二さつ貰ふ。見かくしノ事談。夜、亀右衛門来る。見隠しノ事申。夜雨降。

○九日。少ゝ雨降。今日より釈奠ニ付学校へ出ル。鳥井浦へノ状塩屋迄持参。静ノゑかく。ふ出来。

○十日。少ゝ曇ル。亀右衛門ふ来。約束なれどもこぬ

ゆへ有馬迄よひニ行。一寸来れともこられぬよし申ゆへ見隠しするにふ及と言。近眼ノ藤助と前髪とヲよこし戸ノしき拵ル。酒呑す。安兵衛と熊とハ土堀上る。夜、岩一郎・母君金ひら参り。おりす庭迄くる。小梅少ゝ頭痛。

○十一日。大ニ快晴。近眼と前髪二階ノ戸袋こしらへ。安兵へはしり本直し。瓦竹へかハらかひニ行。とうらう十斗代弐匁。廿文斗過。熊ハ土あげ○昨日十日ニ七山ゟ申付候薬五十服了、新道壱丁目松嶋ヤ九兵衛ゟ持参。

◐十二日。安兵へ大工二人つれ来り見かくしする。熊土ねりや何か手伝ひ、岩一郎も見かくし板ぬり手伝ひ。夜酒呑す。雨降出ス。夜降。

○十三日。釈奠ニ而朝早ゝ起出て五ツ前出ル。たんゝ天気上ル。四ツ比相済候よし、八ツ比帰り又八幡辺へ行とて又出ル。留主中京喜ゟ重三ツへ色ゝ入持参。右ハ岩橋藤助殿へ。夫ゟ又皆ゝ来ル。志賀・山本・林・岩はし也。池田ヲよひニ行、来ル。酒出ス。夕方帰ル。

○十四日。さむし。安兵へ・熊来る。屋根瓦取かへ。垣くくり抔凡四十持参。求四匁渡。醤油取ニカンキ丁へ権七行。

○十五日。快晴。ひへる。会ニ而山本・三伯・栗山・佐津川・富永来ル。省太郎跡へ残る。酒一ツ出ス内野呂清吉来る。同しく酒呑四ツ過迄咄しする。何も肴なし。梅本ニ而返ひける柳忠二郎結構。病気ゆへ客ハ断。夜前池田ゟ手紙来る。小梅ハ静書。風呂たく。

○十六日。快晴さむし。今日も小梅静仕上する。何事もなし。おりすへくき遣ス。昼より皆ゝ灸すへる。田宮隠居より文よこす。

○十七日。雨もよふ。しミゝする。学校当番也。又柳原へ見廻。菓子一箱送る。酒出さる。又田中へも一寸行。酒出ス。其内雨降出候ニ付傘ハ学校、下駄ハ柳原、ちやうちんハ田中ニ而かる。夜五半時比帰る。遠藤ゟ菓子一箱来る。森ヤおつヤ礼に

くる。わかめ十枚持参。

●十八日。栄谷才二郎祭ノよし、餅十五持参。八ツ過田中へ肴一籠此度ノ祝ニ送る。ちやうちんかへす。源津保左衛門来り、本よむ内、久家馬助来り、酒出ス。日五へ権七行。

○十九日。岩一郎直川参り、千太郎同道。

○廿日。さむし。信江来る。小梅ハ冠録寿書かけ。小梅夫より髪ゆひ、夕方ゟ鈴木江信江・お寿三人つれニ而行。夜四ツ比帰る。主人ハ岩はしへ行。

○廿一日

○廿二日。昼まへ信江へ出ス、赤まま。昼比同人帰る。お寿ハ親仁あしきとて城ノ口へ行。善之助来る。本よみ。夜九ツ比迄よむ。酒出ス。取口造り肴取寄。風呂たく。善之助入。

○廿三日。又、善之助来る。夜也。今晩ハとまるとて終夜本よむ。紙ひなの懸物持参かしくれる。くし入。畳紙へ画書候様申さる茶書。

○廿四日。朝、善之助帰る。あら浜へ行んかとの事。断。母君仏参。九右衛門来る。酒出ス。夜かへる。

○廿五日。朝ノ内少し雨ノ催し。小梅洗だく。今日ハ会也とてさうじ抔する。よくよく思へハ明日ニのばししよし也。夫より主人岩橋へ行、夕方帰る。喜多村ゟ大切知らセくる。妻女八ツ比落入しとの事。母君夕方行。主人も同しく行。笹屋へ返事聞ニ行しに、学校当番也。日本外史も帰し、札五十三枚申こす。夜行キタムラへ。妻八ツ比ニ病死。岡伝ニ而中焼二枚取。半紙三枚。

○廿六日。熊はたらきに来る。喜多村妻病死ニ付今晩さう式。岩一郎権七つれて見立ニ行時に、雨降出し。五ツ過比しんどう光り物して西ゟ東へとをる。障子ひり〳〵とゆる。岩一郎ハ金龍寺ノ堂ニいたるニミへけるよし也。母君もキタムラ迄行見立四ツ比帰る。主人はいたミねている。

○廿七日。はいたみ皆休ます。七ツ比松下来る。酒出ス。安兵へもくる。主人は大分よしとておき出、とも〳〵酒呑。にまめ野呂へも遣し、又松下へも

送る。石橋来る。今晩集らんと言。断。

○廿八日。今日ゟ左詩ノ会ニ而省太郎・浅之助・野呂・富永来る。一ツ酒出ス。石橋昨日約束ゆへびは持参ス。九ツ比迄咄ス。昼しけの殿おきさつれて来る。跡より芳太郎来る。すし酒出ス。

●廿九日。大雨。キタ村ノ下女来る。今日たいヤ相勤候間御参り被下よとの事。七ツ過主人斗り行。二匁ノらうそく求て香儀。源津ゟすし一重くれる。小梅一時斗ゑかく。

○晦日。善之助来る。あわひヤ鳥肉少ミ持参。其内藤助殿も来、とも〳〵酒呑、夕方帰る。そは壱匁五分ノ求。

○三月朔日。壱匁位ニ而このしろ弐調へそなへ、八ツ過宿ニ而皆〻たへ仕廻候処へ、九右衛門殿来る。取口とり寄る。酒ハ才二郎こへくミに来るヲ頼ミかふ。代壱匁。帰後、直ニ米ヲ岩一郎と小梅二人してつく。ままたく。主人彦二郎殿へ行、留主。

○二日。かけとり共来る。八百岩へ炭二俵遣ス。六匁八分。主人又方〻江行。浅之介方ニ而酒呑。花貫ひ九右衛門江持参よし也。夜、小梅喜多村へ行。しヤうじんすし一鉢おくる。

◐三日。少〻雨降。登城して内田善助方へ行、よばれる。下駄・傘かり帰る。梅本へ家内ハよばれ又池田へ行。又同家御新造夫婦来る。酒出ス。おりす来る。熊も来る。百廿文相渡ス。

○四日。田中九右衛門方へ行。母君ハあしいたくふ行。岩一郎・小梅、権七と行。跡ゟ主人来る。岩橋おくかた同座。善助とりもち、直ニ帰る。跡から妻女とね来る。夜四ツ比帰る。久野三味引。小重へすし母君へ。

○五日。さむし。今日ハ左氏ノ会ニ而野口・富永・栗山・佐津川来る。七ツ比万吉来る。小とん柏抔仙助ニもたせ帰る。金二朱持参。扨覚円寺朝来り、明日御出との事故約束して久野もつれ行度ゆへ、権七ヲ田中へ遣ス。手帋持参。則返事。善之助ハ世古楠左衛門ノ妹他へ嫁しつきし者今暁病死ニ付

得不行。家内ハあら浜へ行、留主。親も当番ニ而るすゆへ帰り次第返事可致との事。納とうミそ少ゝよこさる。浅之助も来候間さそふ。藤助同様。

●六日。夜前七ツ比ゟ降出ス。終日止ます。万吉箱取に来る。酒出す。安兵へ来る。酒呑ます。今日学校ノ当番ノ処、覚円寺行ニ付、岸へ相頼ム。

○七日。内田へわらび遣し。雪駄とてくる。

○八日。安兵へ、熊土ほり日ねりニ来。田中へ権七ヲ遣ス。明日向へ川行ノ事。九右衛門殿も来る、直に帰る。会ニ而山本ト富永来ル○明日ノこしらへ酒肴取ニやる。権七夜行。仙助庭迄くる。権七ニかしたる大小ノ事。庄助来る。浅之介参候筈ノ処しヤくニ而得ふ行との事。

●九日。快晴ならねバ今日も止メ。覚円寺来り、明日か十二日ニこいとの事。花ハ今十分ノ名ノよし也。田中ゟ使来る。今日ハ楽居候とも留主ゆへふ行とて、岡田ゟ肴、田中ゟ酒よこす。本かへしニきて又かす。上ノ御本。千代野も来る。

●十日。雨。覚円寺来酒出ス。とまりすしニ而。万吉ニも一寸出ス。北野へ子ニも出ス。夜、権七ヲ田中へ遣ス。明日天気よく候ハハ覚円寺へ行候との事。もし明日もふり候ハハ、先相やめて十五日ニ八幡へいて御立寄候様ニ被申遣。

●十一日。又今日も降。九右衛門来る。さハら一尾さけ来る。酒出ス。滝本源三郎も来る。酒出ス。夕方帰る。

○十二日。やうやく天気、しかし快晴ニもあらず。小梅ハふすま張かける。大ニセわしく。どん天。

○十三日。同しくきのふも二枚ノふすま張。野呂清二郎来る。喜多村半右衛門も来る。帰り。野呂夜迄いて、さけ出ス。何もなし。月よし。

○十四日。昼から大工藤助来り、ふすまのふちうつ。すし夕かたつける。学校当番。

◐十五日。少ゝくもる。今日ノ会やめ。八ツ比ゟ田中家内来る。桂・常代・久野也。内田、内室、虎之助下女跡ゟ九右衛門殿来る。松下彦右衛門殿・富

之助・寿代・鈴木隠居跡ゟおきさ。又向へに芳太郎来る。市川斎・狂言師二人池田甚左衛門ト也。其内雨降出シ候ゆへ田中ノむかひノ男来。看ヤ忠兵へやとふ。小梅庭廻り権七も手つだひ、夜九ツ比迄相済。

●十六日。降。朝、安兵へ娘小梅帰る。跡かたづけして、昼いいもたべす小梅・母君もねる。看ヤ忠兵へ七りん抔取ニくる。何事もなし。

○十七日。やうやくはるる。芳太郎虎やマンチウ一箱・かつをふし弐本持参。今日、梅本・池田・松下抔へ道具かへす。三味・しよく台ハ池田・藤白。田中ノ男大小ノ事ニ付来る。今晩とまるよし也。

○十八日。天気よし。山本省太郎来る。誰も来ぬゆへ帰らる。其跡へ野呂来る。一人ゆへ会ハセすして、向へ川辺へつれ行。其跡へ浅之助来る。しハらく咄して帰る。貴志ゟ頼れたる小絹地ノ画相渡ス。扨主人ハ北野ヲさそひ覚円寺へいたりしに大勢集りいるゆへ、又照光寺へ行候処、京都へ行留主。源三郎方へ寄候に仲間五六人来ているゆへ帰る。夫ゟ又酒屋ニ而酒ととのへる。此処に昨年野呂か置て有しひやうたん有ゆへ、夫へ酒入て又北野へ行。一盃呑帰る。いつれも〳〵さしつかへ有けるよし也。

●十九日。又雨。安兵へ来り酒のます。引窓ノひも直し。ささげうへる。夕方、芳右衛門との来る。酒出ス。何もなし。夜九ツ過比迄小梅糸とり。

○廿日。学校文会ゆへ八ツ過ゟ行。

◐廿一日。朝ハ大ニ快晴。八ツ過ゟ又降。はくろ町地蔵ノ有寺ねりくやう廻状来る。大納言様御国入ノ事。菊千代様御髪置。惣登城廿二日ノ筈。岩一郎・野呂や山本ハ今日ヨり会初ゆへ行。三丁目ゟ菓子七ツくれる。

●惣登城也。しかしふ出。七ツ過主人源津へ行。るす。喜多村へ寄、遠藤修平方へ行、酒出されしよし也、牡丹盛少〻過たる躰也との事。小四郎色餅十三くれる。安兵へ来て、木瓜なへうへる。三匁三分遣

ス。

●廿二日。安兵へ来る。引まど直し。大工藤助も来る。三匁ト廿文遣ス。藤助ニ茶つけたへさす。安兵へも同様。酒なし。主人ハるす。

○廿三日。夕方、夏目三郎太夫来る。酒あらバ肴有ゆへ取ニヤるとて家来ヲ遣ス。小魚三尾とてくる。五ツ比帰る。岩一郎ハ岡田虎之丞ニさそわれ円福院勧進能見物ニ行。昼比、虎・岩橋鉄助・大助と荷持と来りつれ立行、夕方過帰る。どん天。

○廿四日。学校当番也。岩橋へ行、又帰りて後正住寺へ行。ヨヲカン持参。竹ノ子・そば抔出ルよし也。ちやうちんかりて帰る。

◐廿五日。会ニ而人〻来る。善之助も来る。跡ニ而酒出ス。夕方過帰る。たい〳〵七ツ持張箱も持帰る。朝九右衛門殿も一寸くる。直ニ帰る。其時増田五郎大夫ノ養子来る。名乗ノ事頼まる。親隠居ノ願出し有之ゆへいつ相済候も知れズとの事。惣登城ノ廻状来、明四時半袴着。扨六岳病死セしと三伯言。未実ふヲ知らねと大かた誠成へし。よに才子ヲ置事ヲいとふや。おしまるる者ハ皆若死也。長命してうとまるると、おしまれて短命なると、いつれかまされるや○母君仏参。かさ人〻江かす。

●廿六日。惣登城。しかしふ行。七ツ前、泉伊崎ゟ使来る。本四冊・日かさ取ニくる。渡ス。手紙・菓子一箱送らる。返事書。使ニ酒一ツ出ス。其菓子ヲ夕方仁井田へ持参見廻。同人じしつニ而ふしゐるよし也。ちやうちんかりてくる○年号嘉永と改元也。

◐廿七日。ヤうヤくはる。権七ヲ仁井田へちやうちんかへし、正住寺へも同様、田中へふた物かへし、かさ取ニやる。其外何事もなし。今日ハ朝ノ内降候へ共昼後日あたるゆへ、のりかひ物抔したり。伊藤恭蔵殿へ行よはれる。とうふにあたり心地あしとて早〻帰る。

●廿八日。又降。今日ハ会ニ而富永斗来る。野呂ハ岩橋ノ会へ行ゆへ断。山本省太郎ハ夕辺とうふニ当

り腹痛のよしニ而断。浅之介おそく来る。会ハセす。酒出ス。富永さば二本門前へうりニ来りしヲ求くれる○扨京都連(ママ)如上人ノ法事ニ付諸国ゟ人〻おひたたしく来るよし也。諸人江出ス膳ハだいだい一切・麩ノ生一切・今一色ハ大根一切とやら也。御坊へたいたい申来りしゆへ一万千ととのへくれよと申来るゆへなし上らぬ物と思ひたる由なれとも、参詣ノははかか抔へ申候処、私方ニも少〻御座候とていつれもいつれも持来りしゆへ数ハとのひしかと、登し候駄賃ニ壱〆六百目とやらかかりし由也。誠ニやと屋ハ一はい人ノ山ニ而やうやうふとん一まいかり受てねるよし也。

○廿九日。しふ〳〵なから先ふらず。主人ハ八ツ過ゟ岩はし・田中・内田抔へ行。明日、能見ニ行ゆへさそひニ寄と善之介申候よし也。扨、久野丹波守殿今日四ツ時召状也。もし病気なれハ名代さし出候様ニとの事。おゑんがハニ成、御名代抔ハ其儀なしとの事。岩橋ニもられいゐるよし也。是ハ先比ゟげい子留りしニ、東石抔へ御出有しゆへとの事。とかく女ニハ迷ひ安きもの也。先日ゟ木なしノ婦娘ニもはらませしとのさた。其外色〻有。岩橋鉄之助来り、和歌法福寺ゟ申来りしゆへ、御祭ノ時ノさんじきとる名まへかしくれとの事○権七伊勢やへ遣スニ付、かれ是心配○扨、野呂清吉来る。しハらく咄し夕方まへ帰る。小梅ハ直川へ参らぬ代り塩だち。

○四月朔日。始快晴ス。扨、今日山へ行約束なれとも、昨日善之助と能ノ約束セしゆへ、かれ是見合ス内、昼後富永来る。佐津川ハ夫より前ゟくる。石井篤之助もくる。是らハ山ノつもりニ而少〻酒肴たつさへ来る。善之助来る。扨、言出したる浅之助ハ断、野呂もふ来。山ハいつニても行るるゆへ能へ行。岩一郎もつれ行。弁当持、魚久ニ而小重へすしつめさす。二重。又二重へハ麩トあぢと入、酒一ひやう持参ス。留主中何事もなし。権七ヲ和歌やへ遣したる斗也。利あげ○高橋と云人礼ニ来

る○増田五郎大夫養子名乗ノ事たづねニ来る○絵一幅かく。しかしふ出来。夜八ツ比帰る。能ハ松風石橋土佐坊何々セしよし。先仙助・たつ・仁助とやらん三人ヲ石切屋へ夜分よびニやり、大ニ盛ニ酒肴・そは、すし・とうふ焼抔して大ニもてなすよし也。善助寺社役ゆへ木戸ノ所ハ何人ニ而もよく廿人程もゐるる程所取して、ふとん抔敷よき場所ノよし也。夜石切屋ノ内も余程よき座敷ニ而、橋かかりノ様子円福院よりハ増かし由候也。善助大酔ニ而ねる。其儘残し置皆〻帰りかけニ又夏目ヲおこし候よし。其節善之助と石井とハかへりし由。其次、岩一郎先宿へ帰り、跡ゟ富永・佐津川、主人ヲ送り来る。茶出さんとセしか、火も皆きへかれ候てひま取ゆへ、砂糖相出し、しハらくして両人帰る。ひヤうたん・小重ハ石切やへ置てかへるよし也。両三人ノ能役者へ十匁程、富永ゟ出し置、外に又善助もやりし様子也。

○二日。快晴。岩一郎、山本浅之助方会ゆへ行。酒呑候よし。主人も同しく浅之助ニ而酒呑、又田中へ礼ニ行候よし也。外ニ何事もなし。

○三日。小梅セんだく。大ニ快晴ス。のりつけす。さう除抔して大ニセわし。田中ゟ音と言人ヲよこす。小重・ひやうたん持参。此方ゟちやうちん二ツかへす。増田より頼まれたる名乗かへし出来て、権七ヲもたセ遣ス。酒一徳り取。日五

○四日。快晴ス。増田養子礼ニ来る。酒券二持参。石井も礼ニ来る。酒入持参。万吉来挟箱つくろふ手伝ひ。権七ヲ伊勢屋へ遣ス。入かへ物、のしめチヤ一重物三色扨々セわ也。小梅又すおう染○昨日一位様西ノ丸江入御何か御見分也。御ふしんごやも御通りかけ御見分。しかし御酒被下ハなし。六日　大納言様御入ゆへ、例年御坊ニ而ならし有ども此度ハ三日夜也。昨日大工藤助ノはり箱ノふた二ツ持参。代五十文遣○たばこ壱匁梅本ゟ持参。

○五日。会ニて人〻来る。とみ永・三伯・栗山・山本善之助也。同人跡へ残り酒遣ス。だい〳〵七八ツ

持帰る。小梅すしつけ色〻セわし。大ニくもる。

●六日。降。御入国なれとも降。しかし四ツ比ゟ主人榎木下へ御出むかへ、帰りニ藤助・鉄・大助・和佐喜一郎つれ来る。酒出ス。母君ハ直長へ行。岩一郎ハ弥一郎と同道ニ而水嶋へ行、留主中也。有合のすし・肴抔ニ而出ス。其内皆かへる。くしらノ筋一ッ鉄助へやる。今晩白井忠二郎帰るゆへこいと言。しかし大酔ニ而ねる。ふ行。

○七日。どん天。主人、白井・安家抔へ悦ニ行。其外何事もなし。

●八日。降。会ニ而、山本、同富永・野呂皆来る。夕方帰る。かきまセすしこしらへ人〻江一盃出さんとせしかやめ。

○九日。快晴。主人岩橋へ行、又田中へ行。宿へハ九右衛門との来る。直ニ帰。母君少〻風気。梅本へ行、茶ニよばれる。主人夜帰る。お金来、直七右衛門ノ極楽ノ双六持参ス。直ニ帰る。

○十日。快晴ス。酒井省安八ッ過来る。酒出ス。紙ひなノゟ一枚送る。本かへしニ来る。権七ニ笹やへ日本外史廿二冊もたセ遣。主人山本へ行。中ノ丁若旦那昼来る。よびニ也。扨、省安居る内ニ主人出かける。昼前木村敬之進ニ美人画二枚ミセる。覚円寺十三日比ニこひとよびニくる。扨　大納言様御事　一位様御たい座御咄しニ何事ヲ仰らるるやと女中うかかふニ、やはり下さまと同し事ノよし。先御じき被成候ニ畳ヲ御かき被成候ゆへ何ゆへ左様遊さるやと尋ね申上候へハ、是ハ忠気也との給ふ。扨、仰ニハ十四日比ニ又参るへく候。何も御かまひ不被成様、私ハリウキウいもが好ニ而候と仰けるよし、女中より聞。此度御道中ニ而御たか野両度有さぎ二羽御手ニ入しよし也。御たか九本・御犬五ひきとの事。御むかひニ参申人ニ仰らるるハ扨紀州へ着迄ニ度〻出むかへノ者共ニあいさつセねハならぬよし。おれハ知らぬゆへおしへてくれよと仰らるるよし也。扨、御城へ入御被成御式有。安藤殿へ始而也、万頼ゟと仰けるよし

也。夫ゟ西浜御殿へ入らせられ一位様ニ御対顔御はやし有。湊御殿へ御入ハ四ツ前ノよし也。御年齢廿八歳と言人も三十八才いや四十八才位と言、未たふ分明也。御廿八才ニ而御ふけ性ニ而あらせられ候半とおほゆ。三味も御ひき遊し、能御好、御学文も随分遊され候よし也。今日ノこうしやく有。久家馬助当番也。此度帯伊ニ津山参来てゐるよし也。帯伊ノおち也。則今晩彦十郎殿へ来るよし也。此度安家ノ御供廻り誠ニ大そう也との由。家中二男三男迄殊(ママ)〳〵く出たりと也。先とも斗七十人有との事。江戸ニ而鍋嶋殿へ安藤殿ヲ御しやうたい、殊之外ていねいニ而御帰りノ時、御書院迄駕持来る。安藤殿御じたいなれとも、鍋嶋公いはるるハ是ハ尊君ニ致スでハなし、御先代ニ御恩御座候間致候とてやます、大ニ御もてなしノよし也。

久野殿先月廿八日ニハ加太へ駕ニ而御参詣也。雨天ゆへ道より御やめ也。松江辺ニ御寄也。かた神主ニハ御役受ノ御馳走ヲ右ノ御寄ノ所迄持参ニ而人〻酒呑いる内、久野ノ家来馬ニ而来り、主人ニ申ニハ今日渡辺もんど殿　一位様ゟ俄ノ御めしニ而参られたりと申。丹波守殿是ヲ聞かれ、左様ノ事ならバ此方へも申来るへき筈也とて、少し気ニ御気ニかかられけるや、其後あまり御酒も上らす、しハらく休む。したかひ行し人〻中ニハ此節磯ニいな殊之外沢山とつき有之よしニ而候と申。丹波守殿夫なれハあミヲ取ニやり打候様仰らるるゆへ、直ニ人ヲ遣ス。扨取来り取ニ行しに尺斗ノいな十六尾手ニ入しゆへ大ニ勇ミ御主人ニハさそ御待かね成へし。是ヲ御めに掛候ハヽ御悦ニ而有へしとて帰る。其時又早便来り、御召状ヲ御目ニ懸る。丹波守殿ひそかにミて大ニおとろきながら、人〻へハ何ともいはず。皆〻いなヲミセる。夫ハよく手ニ入たり。我ハ急ニ用事出来候ゆへ是ゟかへる、其方達ハゆるりとする様ニと申され、扨ハ出半之右衛門へひそかに右ノよしヲつけ、我

ハ皆〻へゆる〳〵遊ふ様申たれとも此所ニ長居センもいかか也、早〻皆〻つれ帰らるへしとて其儘かへらるる処ニ、此度ノ御様子ゆへ大ニおとろき腹立してたん切もてこひといはるるゆへ干菓子もち行しに、いや夫ニハあらす、大ねぢ也と言ゆへ、早〻ととのへニ遣しさし出し候へハ夫ヲ取てかミ切折すて是ニ而少しハよしといはるるよし也。かねてよりちやうあいノじん香やもいとま遣されかへしけるよし也。菊ノ間ニなられ候。御名代抔相勤るニふ及との事。おくかたハ引入しとも言。是ハ実かいなや不知。御隠居ハ病死ニ而今晩さう〳〵也。是ハ母君かおば君かいなやふ知。

○十一日。昼前魚や来り、こち一本取、代八分。昼比白井吉次郎殿ゟ使来る。大次郎此度江戸ゟ帰り候ニ付土産物送らる。肴一籠・ゑ半切五十枚・猪口箱入、但し、チヨタヒビキ入て有。書かん袋二〆也。手帋添○池田ノ風呂へ入ニ行。其外何事もなし。小梅ハ武者ゑ半切一枚へ書。右楠右衛門ノ甥初幟ゆへ頼ミニ来る。武内宿祢ヲ書。ふ出来也。半日かかる。

●十二日。今日も又半切へ武者書かけ。しかし雨天ゆへやめ。七丁目直川や七兵衛ゟ肴二尾送らる。右ハ先達而扇面五枚書遣しし礼ノよし也。万二郎来り、すしつける。かつはやおぢ大病ニ付千太郎ハ木ノ本八幡へ御祈とうニ参る。

○十三日。江戸人津山ヲ振廻ノ為和歌辺へとも行へき約束なれ共、未たきまらねと、今日ハ快晴ゆへ行ニよしと出かける所へ浅之助との来りとも〳〵行。其跡へ岸久半殿来り、もはや御出候かと言是も跡ゟ行よし也。かすてら箱入くれる。是ハ先日認メし絹地二枚ノあいさつのよし也。直くり帰る。しかる所、主人夕方前帰る。今日ハやめ十五日ニきわめしよし也。留主中津山来る。きセるたはこ入・猪口箱入持参也。直ニ帰る。直川や長兵へついニハ養生ふ相叶七ツ比病死。夜火事。さいく町火事。

○十四日。大ニ快晴。今日覚園寺へ家内ふ残よはれて有しとも、直川ヤニふ幸ニ付断申遣候半と権七ヲ待ともきのふの朝ゟふ帰。センかたなく主人と岩と行。北野・栗山と斗、殊ノ外馳走もてなしなれともさひし。しかし、親子共ひはを弾し、ひちりきヲふきもてなしけるよし也。小梅ハ梅本ノわたぬき、又ハ麻しゆはん二ツノつくろひ頼れてぬふ。何事もなし。朝九右衛門殿来る。酒出ス。直ニ帰る。主人ハ火事見廻ニさいくまち小嶋伝右衛門方へ行。同人ノむかひノよし。足袋や一軒也。近頃ふしんセしよし也。又かつぱやへも悔ニ行、大ニセわし。夜四ツ頃帰る。夜岩はし藤助殿明日津山ヲ能書へつれ行事申。

○十五日。快晴。今日ノ会断、津山ヲするかや下屋敷能書江同道。山本・同、志賀・岩橋・岸其外皆〻ニ而、凡三拾目程ノりやうり。しかし是ニ而ハふ行。三伯来、会ノつもりニ而。八ツ頃岩一郎三丁目直川やさう礼見立ニ行、直ニ帰る。安兵へ熊つれてさうじニくる。二時斗。万吉つづら取ニくる。

●十六日。風立。池田風呂入ニ行。魚万来、肴二尾取、八分五リ、四分五リ。昨日、本居弥四郎・かけひ平十郎御用出ノ知らセ来る。しかし、野所へ行候ニ付ふ行ゆへ、今日悦ニ行。本居ハ廿五石ニ成、かけひハ五十石ニ成候よし也。かく式ヲ望しよし也。今年四十八年ノ勤よし也。本居八十二年目ノよし、外ニ十人斗も有之との事。雨ぱろ〳〵降。母君此間中風。小梅も左ノ方皆あしく、口中も少〻あれ、今日ハ休ミゐる。

●十七日。雨天ゆへいづ方へもふ行。たんたん雨あらく成、御渡りノ頃大風雨ニ而かさ吹折、皆〻びたぬれ。尤御こしへも雨降込、上ニもあれ程御ぬれ遊候事ハ有間敷との事。ほろハ水ふくみ至而おもく舞こけて得起ず。そばよりおこしニ行しとの事。しかし、上ニハ一〻御覧也誠ニ畏也との事。尤初見ニ行し人ハ松葉さんじきニハ波打込ゐられねハ皆ちり〳〵ばら〳〵と成、こける者もあり誠

ニさんざんニ而有しとの事。松ノ木折、しかしけがハなし。ことしハいつもよりも旅人大勢来りしよしなるに、御わたりもそなへたたずとの事。帰りニハ美しき着物も皆ひたぬれと成、ヤう〳〵一本ノおれたる傘へ五人程も打よりてあわれ成有様也。上下のしめ皆一トぬれと成、上ゟ御出しかさも百本余り出候へ共中〳〵おひつかす。よしや傘有人も中〳〵さしてゐられす皆吹飛てたいノそんじいふへからず。一位様ニハ先へ帰御ニ而、当殿様ニハしハらく御見合ゆへ大ニぬれけるよし也。夜ニ入大ニ快晴。御舟逐浪丸。しかし風雨ゆへ川口ニゐて和哥へハふ行との事。旅人等ハやれ〳〵孫子ノ末迄わか祭ヲハミにこさセぬと言。

○十八日。大ニ快晴ス。会ニ而、山本、同富永来る。野呂ハ断。跡ニ而酒出ス。権七伊勢ヤ江遣し少〻調立す。大小主人、内田善助此間中じしつニ而あしきよしゆへ菓子箱見廻ニ送る。名君か代也。るすゆへ直ニ帰る。

○十九日。快晴さむし。廻状来る。年頭御礼廿二日ニ罷出候様ニとの事。

○廿日。大ニ快晴。昼から学校へ詩会ニ而行。跡ニ而川原へ行、とうふ求し岸久米吉払。又そば屋へ行ゆへ、行んかとさそひつれ出し帰候よし。留主中万吉へ酒出ス。黒田ゟ三国志言備五冊かしニくる。子ともつれ来れどもあいそなし。昼前芳右衛門との来る。右ハ梅本へお仲ゟのことづけ言ニくる。留主ゆへ此方ニ而咄ス。酒出ス。壱升日五ニ而取所へ、魚万来り九分ニ而ゑぶた一ッ取、弐分五リニ而あぢ五ッ求。小梅少〻気分あしし。

○廿一日。大ニ快晴ス。栗山芳助かます五ッ持参ス。子供へも少しやる。又梅本ゟ保田五ット空豆少〻くれる。酒井省安ゟ山のいもわらづとことづけとす。きた村ノ子供遊びニ来る。まめいり抔してあそぶ。のしめ拾ニする。明日年頭ノ御礼ニ罷出るゆへ也。夕方熊ヲ供ニつれ度と頼ニ行、もはヤ権七頼有しよし也。きのへ子早朝大坂北江戸堀赤石

清祐ノ忰来る。去年ノ代払六匁八分、又壱匁筆壱匁・金ふん壱匁五分・筆二本取壱匁三分筆、〆四匁八分也。

○廿二日。朝早〻ゟ登城熊ヲ供につれる、昼頃帰る。扨長上下着用ス。今日ハ権七未た帰らす、米切候而大ニこまりゐる所江常来りしゆへ申、直ニ米持参ス。四匁七分。母君さきの森へ参り、帰りニ松下へ寄。松下養子富之助ノ実父病死のよし也○田中ゟ祝ひ餅送らる。松下彦右衛門との先日ノ礼ニ来。

○廿三日。山本、同富永等佐氏ヲ写しニ来る。酒出ス。五ツまへ帰る。其前野呂酒呑来り、跡へ残り酒呑四ツ迄はなし。

○廿四日。津山帯伊ニとまりゐて明日帰るよしゆへ、いとま乞ニ行、あさり貝壱匁二分ノ求遣ス。遠藤ゟいはひ餅送らる。小梅画書。

○廿五日。快晴。会ニ而くり山・富永・山本等来る。今日も小梅画書。平これもち也。池田の風呂へ小梅入ニ行。夜田中へ行。明日熊野へとうぢニ行よし也。九右衛門との妻女ト内田善助ト行との事。しかし、きうに一人つかへ出来候ゆへ有本家中ノ人夫婦ヲともなふよし也。明後日のよし。

●廿六日。今日も御礼有、正月二日ノ代り也。夜シん之助来る。一昨日野呂へ本五さつかす。名賈誼新語。山半へ一重物見セ候様権七ヲやる○茶取。

●廿七日。さむし。山半へ単物申遣し直ニ来る。一ツ求。けんほう小紋、地ハねごやちちぶ也。紋直しニヤる。しかし、嶋ノ方ニ致候方宜と存候所へ紋ノ事とひニ来候間、同しくハ嶋ノ方持来候様申遣ス。未返事ふ来。明日西ノ丸ニ而御はやし有之よし也。

◑廿八日。朝ノ内降、たん〳〵能天気となる。今日ハ山本省太郎殿さしつかへ有之ゆへ会のばし。右ノ事もや、又廻状も有ゆへ、今福山本へ岩一郎行。野呂来る。直ニ帰る。山本ゟ祝ひ来る。山半ゟ一重物持参。

○廿九日。快晴ス。偏章ヲ湊御殿へ持参。風呂たく。
小出ゟ七ツ過使来り、初ニ而皆〻来り居候間御出
被下候様との事、行。昨日、きよの来り、先日書
遣候ゑニはんおしてくれと持参ス。直ニ帰る。